令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【土合小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」の主語と述語の関係において、R5年度の市平均を-10pt程度下回っている。 <指導上の課題>主語・述語の理解を定着させるための反復・習熟に取り組む時間の設定に課題がみられる。	⇒	主語と述語の関係における理解を定着させるワークシートの作成若しくは、発問による反復・習熟の機会を各単元ごとに設定する。【月に1度以上の実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>国語「書くこと」の敬体と常体について及び、推敲してよりわかりやすい内容にすることにおいて、R5年度の市平均を-8pt程度下回っている。 <指導上の課題>文章を書く際の観点を確認させる方法や時間の設定に課題がみられる。	⇒	書く活動に取り組む際、評価の観点をワークシートとして配付若しくは、データ上で閲覧可能にすることで常時確認できるようにするとともに、共同編集等を活用した協働的な学びの時間を設定する。【書く単元の際に毎回】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語では「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字を正しく使う問題に課題がみられた。二字のうち片方の漢字は書けているが、もう一方が書けないことによる誤答が多かった。本校児童の日常生活において使用頻度が高くなく且つ画数が多い漢字だったため、知識・技能の定着が不十分だったと考えられる。 算数では「A 数と計算」の除数が小数である場合の除法の問題に課題がみられた。除数が小数である場合の除法の商が、除数が整数である場合の除法の商より小さくなるという誤答が多かった。除数と商の大きさの関係の理解が不十分だったと考えられる。
思考・判断・表現	国語では「C 読むこと」の物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題に課題がみられた。解答する上で求められている記述条件が満たされていないことによる誤答が多く、問題に対する理解が不十分であると考えられる。 算数では「B 図形」の球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題に課題がみられた。立方体の体積の求め方に不要な円周率を式に表すという誤答が多かったので、情報を整理し取捨選択して考える活動を重視していきたい。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	月に一度から二度の割合で、主語と述語の関係を定着させるワークシートの作成及び、発問による反復・習熟の機会を各単元ごとに設定できた。	変更なし
思考・判断・表現	B	書く単元を学習する際、評価の観点を常時確認できるように示すことができた。また、共同編集等を活用した協働的な学びの時間も設定することができた。しかし、児童の発達段階や実態により共同編集が設定できない学年もあったので、これから定着を目指していく。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	今年度の課題としていた国語”主語と述語の関係”では、市平均と同程度から市平均を大きく上回る結果となった。算数では「変化と関係」「数と計算」に課題がみられた。「変化と関係」では、”数量が変わっても割合は変わらないこと”、「数と計算」では、”基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶこと”の理解が定着するよう反復・習熟の時間を大切にしていく。
思考・判断・表現	今年度の課題としていた国語”敬体と常体の使い分け”では、昨年度の本校の結果より向上がみられたものの、まだスキルの修得と活用に課題が残る結果となった。ワークシートやデータによる資料の活用に一定の効果が得られたので、それを継続することでスキル修得を支援しながら他教科で行っている振り返り等の記述でも意識できるよう教科横断的に活用の場を設定していきたい。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	A	主語と述語の関係における理解を定着させるワークシートやデータによる資料を活用した授業が展開され、理解が不十分な児童も常に確認しながら着実に理解を深めることができた。また、意図的に主語述語に関する発問を都度行ったことで習熟を図ることができ、R6さいたま市学習状況調査では、市平均を大きく上回る結果となった。
思考・判断・表現	B	評価の観点をワークシートとして配付したり、データによる資料の活用をしたりしたことで常体と敬体の使い分けに関するスキルの修得に一定の効果が得られ、R5さいたま市学習状況調査の自校結果より向上がみられた。

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	R6さいたま市学習状況調査から算数に課題がみられたので、「変化と関係」の”割合”と、「数と計算」の”基準量と比較量に着目した立式”を重点課題とし、数や単位量、割合の概念が理解できるよう身近な生活の場面に当てはめた学習活動に取り組んでいく。
思考・判断・表現	今年度の課題としていた国語”敬体と常体の使い分け”の達成状況に改善の余地がみられたので、次年度でも継続して課題としたい。今回授業改善の手立てとして行ったことを継続することでスキル修得を支援しながら、さらなる手立てとして他教科で行っている振り返り等の記述でも敬体と常体が意識できるよう各教科を担当する教諭と連携を図りながら教科横断的にスキル活用の場を設定していきたい。